

「経済理論には数式が必ず必要なんですか？」

令和元年6月5日

● Chabo さんからの質問

MMTについて伺います。今朝(5月29日)虎ノ門ニュースで高橋洋一教授が「MMTは提唱者の方々が数式を示してくれないので理解しようがない。」と言ってました。経済理論には数式が必ず必要なんですか？ MMTを実践して(できたとして)本当に大丈夫でしょうか？

● 西田昌司の答え

今の主流派経済学は「経済現象は何でも数式によって表すことが可能である」との世界観の上に成り立っていますし、セイの法則(生産したモノ・サービスは必ず売れる)を前提としています。すなわち、サプライサイドの世界観と言えますし、その世界観に生きていると「供給を効率化すれば良い」という結論に至ることになります。

また、失業者が出たとしても、経済が良くなれば必ずどこかに雇用されるとの前提があるのですが、実際の世界においてはたとえ失業者が求人情報に接したところで、その仕事に興味がなかったり、あるいは給料が安かったりすればその仕事をやらないのです。同じく、どんなに良い商品が販売されたところで、その商品に興味が無い人は購入しません。つまり、人間は自身の価値観に合った選択しかしないのですが、このような「感情」を式に表すことなどそもそも出来ないのです。

ケインズは経済現象を全て数式に表そうなどとは考えませんでした。今の主流派経済学は「何でも数式で表すことができるし、そういった数式を提示している我々は偉いのだ」と言わんばかりであります。そのような主流派

経済学に対して「人の感情のようなものは数式で表すことはできないし、全てを数式で表そうなどと考えるのは机上の空論である」と（私を含めて）批判する者がいて、両者が対立しています。

この論争、どちらが正しいかについては皆さんもおわかりだと思います。要するに、「経済学」と呼ばれるものは単に数式を操る空想の世界であって、学者にとっては居心地の良い空間かもしれませんが、現実には当てはめることの全くできない代物なのです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>